

Case 1) 80歳代 女性

標的病変:左SFA ISO病変

診断名:閉塞性動脈硬化症(Rutherford 3)

冠危険因子:糖尿病、高血圧症、脂質異常症

現病歴:2014年10月、TEVAR施行時に左SFA入口部を人工血管置換(5cm)。2015年3月、左SFA狭窄に対しPOBA。2015年10月、再狭窄にPOBA、2016年1月、再閉塞来しPOBA。2016年4月、再々閉塞にステント留置(末梢からBNS、Zilver PTX2本)。2016年10月、エコーで再閉塞を確認。左ふらつきあり完全房室ブロックの診断でペースメーカー植込み。その際に間欠性跛行を伴う両側ABI低下を認め下肢造影検査で右SFAの高度狭窄と左CFAの閉塞を認めた。跛行あるも薬物治療を選択。2025年7月、右下肢跛行出現し、右SFA高度石灰化狭窄にEVT(JetStream+DCB)施行し、跛行は著明に改善。今回、左SFA再治療を予定。

ABI rt 0.82, lt 0.52

Cre 0.83 mg/dl、eGFR= 49.6 mL/min/m²

Case 1) 標的病變:左SFA ISO

2025/07/10

